

平成 29 年度第 2 回横浜市創造界限形成推進委員会 議事録

日 時	平成 29 年 11 月 8 日 (水) 15:00~17:15	
開催場所	YCC ヨコハマ創造都市センター 3階スペース	
出席者 (敬称略)	<p>■委員</p> <p>野原卓 (横浜国立大学大学院 准教授) <委員長> 岡本純子 (公益財団法人セゾン文化財団) 菅野幸子 (アートプランナー・リサーチャー) 重松久恵 (ブランド・マネジメント・コンサルタント) 簗谷則美 (株式会社ミノヤアソシエイツ 代表取締役) 山口真樹子 (国際交流基金アジアセンター 舞台芸術コーディネーター)</p> <p>■オブザーバー</p> <p>恵良隆二 (公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 常務理事)</p> <p>■事務局 (説明者等)</p> <p>中山こずゑ (文化観光局長) 富士田学 (文化芸術創造都市推進部長) 小泉宏 (創造都市推進課長) 中野浩一郎 (創造都市推進課担当課長) 河本一満 (創造都市推進課まちづくり担当課長) 神部浩 (文化プログラム推進部長) 松元公良 (文化プログラム推進課長) 野田日文 (文化プログラム推進課トリエンナーレ担当課長) 高田聡 (創造都市推進課担当係長) 平原雄 (創造都市推進課担当係長) 大橋礼昌 (創造都市推進課担当係長) 安藤亜矢 (創造都市推進課創造まちづくり担当係長) 安藤準也 (創造都市推進課創造まちづくり担当係長) 田村賢太 (文化プログラム推進課トリエンナーレ担当係長)</p>	
欠席者	<p>六川勝仁 (馬車道商店街協同組合 理事長) <副委員長> 遠藤新 (工学院大学建築学部 教授) 日沼禎子 (女子美術大学芸術学部 准教授)</p>	
開催形態	議題 1、2 公開 (傍聴者 0 名) / 議題 3、4 非公開	
議 題	<p>1 委員長・副委員長の選任 (審議)</p> <p>2 文化芸術創造都市施策の今後のあり方について (説明)</p> <p>3 分科会について (審議)</p> <p>4 その他</p>	
決定事項		
	事務局	【開会】
	中山局長	【局長あいさつ】

議 題 1	事務局	【配布資料の確認】
	事務局	【委員・事務局紹介】 ○人事異動があったため、事務局の紹介を行った。
	事務局	【定足数の確認】 ○委員9名中6名の出席があり、委員会設置要綱第7条第3項により委員会の成立となる。
	事務局	【委員会の設置目的・位置づけ／創造都市施策について（説明）】 ＜本委員会の設置目的・位置づけについて、資料2をもとに事務局から説明が行われた。＞ 〔説明ポイント〕 ●委員の位置付け ●設置目的（運営要項第2条）（資料3） ●所掌事務（運営要項第4条）
	事務局	＜創造都市横浜の概要（説明）について、資料4～7をもとに事務局から説明が行われた。＞
	事務局	1 委員長・副委員長の決定（審議）について ○委員長、副委員長の選出について、委員会運営要項第6条第2項により、委員長・副委員長は「委員の互選によって定める」とあるが、いかがでしょうか。
	事務局	○事務局としては、特に意見がないようであれば委員長を野原委員に、副委員長を六川委員にお願いしたいと考えていますが、いかがでしょうか。
	事務局	→ 委員全員「異議なし」で決定。 ○それでは野原委員を委員長に委任する。ここからの議事進行は野原委員長にお願いをする。なお、本日、六川委員は欠席のため、ご本人への副委員長打診については、事務局に一任いただきたい。では、これからの議事進行を野原委員長にお願いしたい。
	野原委員長	【本会議・議事録の公開・非公開の決定】 ○委員会（会議）の公開・非公開の取り扱いについての説明を事務局からお願いしたい。
	事務局	＜委員会（会議）の公開・非公開の取り扱いについて、資料8をもとに事務局から説明が行われた。＞

	事務局	○委員会は横浜市の保有する情報の公開に関する条例第 31 条により原則公開としつつも、意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれがある非開示情報に該当する事項や市民の間に混乱を生じさせるおそれがある事項を審議する必要があることから、議題に内容に応じて一部非公開とさせていただきたい。また、分科会については運営団体の事業計画・事業成果を審議するほか、新たな運営団体の選考など、団体の利益・不利益など団体内部の情報とすべきことを審議する。そのため、分科会については全ての議題を非公開とさせていただきたい。なお、本日の委員会について、議題 3 及び 4 については新しい分科会設立を審議するほか、未成熟な資料を扱うこともあり事務局案としては非公開としたい。
議 題 2	野原委員長	○委員会及び分科会の公開・非公開について、また本日の委員会の公開・非公開について説明・提案があったが、質問や意見はあるか。
	山口委員	○公開・非公開というのは、会議及びその議事録のことを指しているのか。
	事務局	○会議は原則公開ではあるが、非公開の議題については、傍聴者は退席となり議事録も連動してくる。
		→ 委員全員「異議なし」
	野原委員長	○ほかに意見がなければ、委員会は原則公開とし、非公開情報を議論する場合には一部非公開としたい。また、分科会についてはすべて非公開とすることです承とする。
		なお、分科会での審議内容については、各分科会の議長から委員会に報告いただきたい。
		2 文化芸術創造都市施策の今後のあり方について（説明）
	野原委員長	○それでは議題 2 に移る。初めての委員もいらっしゃるので、創造都市施策の内容を共有するために、文化芸術創造都市施策の今後のあり方について事務局から説明をお願いしたい。
	事務局	<文化芸術創造都市施策の今後のあり方について、パワーポイントの資料をもとに事務局から説明が行われた。>
		〔質疑〕
	野原委員長	○ありがとうございました。ここまでの内容について、質問や意見はあるか。
	岡本委員	○パワーポイントで説明があった資料については、今後の参考として各委員に配布されるのか。情報量が多いため、できれば配布していただきたい。
	菅野委員	○重要な情報に加え情報量も多いので、この場で説明を受け咀嚼してすぐに質問することは困難である。使用後に回収でも構わないので事前に手元に資料があると良かった。次回以降検討していただきたい。説明にあった言葉使いとして、クリエイティブ・インクルージョンとクリエイティブ・チルドレンはこれからも継続して使用していくのか。

富士田部長	○クリエイティブ・インクルージョンとクリエイティブ・チルドレンという2つの言葉は、今後も継続して使用していきたいと考えている。
菅野委員	○デビュタントとは具体的に何を指しているのか。
富士田部長	○デビュタントという言葉は、ここではこれからデビューし活躍していく人たちを指している。
菅野委員	○ここで使用する言葉は、広報という観点で横浜市が世界にアピールしていく言葉になる。デビュタントという言葉は、海外では一般的には社交界デビューの際に使用することを指している。またインクルージョンも世界的にはあまり使用されていない。英語翻訳などで言語化する際、カタカナの言葉は齟齬がないように注意が必要である。また、説明にあった横浜スコアは良い取り組みである。これまでの評価は自己評価が中心であったので、客観的評価も必要である。トライアンドエラーで定着させていただきたい。最後に横浜AIRについては、海外からのレジデンスのリクエストが増えており、日本のキャパが不足している状況なので、この施策も好ましいと思われる。
富士田部長	○議題2については公開となっているので、ここで扱われている資料については後ほど紙の資料として配布したい。横浜スコアという指標については、これまで横浜が取組を進めてきた結果と、この先どのように進んでいくのか経過を見られるように示していきたい。またAIR事業については、これまでに実施してきた事業をさらに拡大させていきたい。
野原委員長	○創造界隈で扱う言葉については、現在の海外状況も含めて適切な言葉を選択していただきたい。
山口委員	○説明にあった横浜スコアにある都市間のスコアについて、例として東京や神戸が挙げられていたが、東京には様々な地区が存在するので詳細に地域を絞ったほうが良いと思われる。
富士田部長	○今回は例として東京23区という表現にしている。神戸は横浜と同じ港町で比較されやすいので例と挙げている。
野原委員長	○調査方法はどのように実施する予定なのか。
大橋係長	○インターネット調査にて、毎年意識・生活行動実態調査を局で実施しており、そのベースに沿ってサンプルを収集する。横浜市内18区で700以上、県ごとに400ずつ、全国ブロックごとに250ずつサンプルを収集している。
重松委員	○横浜では、横浜の企業やクリエイターが作った商品を販売できる売り場がないという現状があり、物販販売への支援が不足しているように思う。東京には支援があるが、横浜には売り場がないことが課題という印象がある。創造性とビジネスと結び付けたいという施策があるが、メイドインヨコハマのような具体的な売り場を設置していただきたい。明確に横浜の企業を応援する姿勢のみえる施設を示していただきたい。
富士田部長	○これまでも販路開拓は力を入れてきた。更なる支援拡大については引き続き検討していきたい。
簗谷委員	○横浜スコアで施策全体の評価を行うということは、市が財政的に厳しい面

		<p>もあるため民間主導に移行していきたいという考えが元にある中で、例えば採算効率が高くなくとも全体としてスコア値（施策評価）が高ければ良しとするのか。</p>
富士田部長		<p>○手法の一つとして民間企業との連携があると考えている。さらにこれまで続けてきた補助金を駆使したケースも引き続き含まれている。評価が高ければ継続していく予定なので、今後もいろいろなスキームが考えられる。</p>
恵良氏		<p>○民間主導の場合、今後のあり方における公共空間については、リアルだけでなくバーチャルの空間もあるはずである。アウトプットについても様々なやり方があり、全体的な施策のアウトプットが目指すべきものについては、考え方、目標、プロセスと成果を分けて評価したい。公設民営、民設民営の考え方についてメリハリをつけたことは分かりやすく良いことである。それぞれどのように取り組むか検討していきたい。創造界限施策も節目にきていると思うので、新たな概念も含めて議論していきたい。専門施設として、市民アクセスや地域課題へのアプローチなどキーワードも出ているので、創造界限拠点の運営者に対しても何が求められているのかを共有し、しっかりとコミュニケーションを取っていきたい。目標設定は出来ているのでプロセスをしっかりと見極めていきたい。</p>
富士田部長		<p>○今回、文化施設について、専門文化施設と地域文化施設に分類したのは初めてである。明確に分類したことで目標も自ずと決まってくる。恵良氏からいただいた意見内容をしっかりと議論していきたい。</p>
野原委員長		<p>○現行の中期4か年計画の中にある5つの目標の成果はどうだったのか。その結果を受けて、なぜ新たなプロジェクトが立ち上がったのかを説明してほしい。今までの課題が新たな指標に反映されていないように感じるため、新たな取組があることについて具体的な理由があれば説明をお願いしたい。</p>
富士田部長		<p>○例えば今までは、横浜にある文化施設の一つの評価方法として、首都圏からの来訪率を評価指標に設定していた。これが正しく評価するための指標として適正なのかどうかといった根本的な部分から精査している。資料で示している数値よりも、これまで実施してきたことを振り返りながら見直していきたい。また創造界限拠点における評価については、必ずしも認知率に比例せず、評価されていることが数値に表れてないことが課題である。これまで実施してきたことを整理し、これから何を続けていくのかを新たなプロジェクトとして繋げていきたい。そのひとつはA I R事業である。</p>
野原委員長		<p>○これまでにご指摘のあった内容が課題としてまとめ、それに対して取組がリンクしていない部分も多いと思われ、まだ提示する段階まで至ってないという印象である。まずは課題を浮かび上がらせて、それに対する指標を示していただきたい。</p>
恵良氏		<p>○選ばれる都市というのは、誰に選ばれることを想定しているのか。ブランド力というのは信頼感であり、横浜市は誰に選ばれていくのかを意識していきたい。</p>

富士田部長	○資料では目指すべき姿を一言で表現しているが、例えば、住みたいまち、クリエイターが来たいと思う都市、一般市民が来たいと思う都市など、様々な方達から選ばなければならない。ブランド力を向上させた結果、どのようになっていけるか見える姿を描いていきたい。
野原委員長	○都市的な視点からいうと、界限を形成することがミッションとしてあり、その一部分として創造界限拠点がある。拠点のみならず界限形成全体についても考えていかなければならず、どのように界限を形成していくかという議論は必要である。関内外OPENもまちづくりのきっかけになる取組を行っている。そのような取組も含めてつなげていきたい。
重松委員	○アーティスト・クリエイターの人数について、提示いただいた資料では最新の数値で人数が減少しているが、理由はあるのか。
富士田部長	○国勢調査でアーティスト・クリエイターの人数を計ることは難しく、指標の設定については反省点であると感じている。事務所等開設支援助成制度については需要が非常に増えている。
河本課長	○事務所等開設支援助成制度は、コンスタントに年10件以上の申請がある。国勢調査データのアーティスト・クリエイターには、大手IT企業に所属するPCプログラマーなど我々がターゲットにしていない職種の数値も含まれてしまっている。我々がターゲットにしている身近なアーティスト・クリエイター層を数値として計れなかったことは反省点である。
重松委員	○東東京方面は家賃が安く、アーティスト・クリエイターが集積しやすい。横浜に行くことも勧めているが、横浜は家賃が高い印象があるため敬遠されがちである。
河本課長	○関内外のエリアには空いているオフィスビルは多数あり、丹念に掘り起こしてなるべく安い値段の家賃で提供できる場所を紹介している。またオーナーの協力を得てセルフリノベーションできる物件もある。
菅野委員	○提示いただいた資料は、これまでの課題と目標が整理されとても分かりやすくなっている印象である。欧州ではドイツのベルリンの家賃が安く、アーティスト・クリエイターが集まりやすい。世界の都市は綿密に戦略をたてており、ステークホルダーである市民、アーティスト・クリエイターといった方たちのために戦略があり、それに対する施策の評価が生まれてくるという循環が行われている。いろいろな情報を集めて、横浜でも綿密な戦略をつくっていけると良い。分野別でのオーダーの方向性は良いと思われるので、分野横断的にも進めてもらえると良い。また海外の施策は基本的に英語で発信されているので、情報についても閲覧していただき、横浜の発信の仕方も考えていただきたい。
野原委員長	○本日の委員会で各委員からいただいた意見では不足する部分もあると思われるので、各委員のご意見も踏まえて次回委員会にて示していただけるよう、そのあたり丁寧な対応をお願いしたい。
富士田部長	○今回各委員からいただいた意見を参考にしながら庁内で検討・調整を進め、経過を次回委員会で説明していきたい。横浜市としての計画なので、

<p>議 題 3</p> <p>事務局</p> <p>議 題 4</p> <p>事務局</p> <p>事務局</p>	<p>事務局</p> <p>事務局</p> <p>事務局</p>	<p>審議というかたちではなくご説明させていただき、ご意見を頂戴したいと考えている。</p> <p>3 分科会について（審議）</p> <p>＜分科会について、資料 10 およびプロジェクター資料をもとに事務局から説明が行われた。＞</p> <p>4 その他</p> <p>(1) ヨコハマトリエンナーレ 2017 ほか開催報告（速報値）</p> <p>＜ヨコハマトリエンナーレ 2017 ほか開催報告についての説明が事務局より行われた。＞</p> <p>(2) 連絡事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回議事録の確認依頼 ・今後のスケジュールについて <p>平成 30 年 2～3 月に分科会を開催する。また、次回の全体会は平成 30 年 3 月中旬を予定。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
<p>資 料</p>		<p>1 次第</p> <p>2 席次</p> <p>3 横浜市創造界限形成推進委員名簿（全体会）【資料 1】</p> <p>4 横浜市文化観光局 文化芸術創造都市施策 担当ライン一覧【資料 2】</p> <p>5 横浜市創造界限形成推進委員会 運営要綱【資料 3】</p> <p>6 クリエイティブシティ・ヨコハマの形成に向けた提言／ 横浜市文化芸術創造都市施策の基本的な考え方（要約）【資料 4】</p> <p>7 創造都市横浜のあゆみ【資料 5】</p> <p>8 創造界限拠点施設の概要（6 拠点）【資料 6】</p> <p>9 平成 29 年度事業評価軸（H29）【資料 7】</p> <p>10 横浜市の保有する情報の公開に関する条例（抜粋）／ 横浜市附属機関の会議の公開に関する要綱（抜粋）【資料 8】</p> <p>11 横浜市 中期 4 か年計画 2014～2017（抜粋）【資料 9】</p> <p>12 横浜市創造界限形成推進委員会 分科会委員名簿【資料 10】</p> <p>13 アニュアルレポート 2016（冊子）</p>
<p>特記事項</p>		<p>本日の議事録については、後日各委員に送付し、確認して頂く。</p>